

2025年度 神戸市外国語大学 教職課程の自己点検・評価結果

※自己評価の基準 : A:成果がある B:概ね達成している C:取組みが不十分又は未実施

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
1	教育理念・学修目標	大学全体	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画は具体的かつ明確な形で設定されているか	教員養成の目標及び目指す教員像を明確に定めている。目標を達成するための計画については、教職課程科目のカリキュラムツリーに加え、履修モデル、履修スケジュール等でHPで公表するとともに、教職課程ガイドブックで学生に周知している。	A	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画 教職課程履修の主なスケジュール ・教職課程ガイドブック
2		大学全体	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画は、学生や採用権者の意見、神戸市教育委員会等が策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか	神戸市教育委員会主催の連絡協議会等を通じて養成・採用等に関する意向や方針を共有するとともに、昨年度に引き続き、教職課程アンケートを学生に実施した。アンケート結果を踏まえ、教員養成の運営と改善に取り組んでいる。	A	・神戸市教員育成指標 ・兵庫県教員資質向上指標
3		大学全体 各学科	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画について、一人一人の学生が教職課程での学修を通じて得た自らの学びの成果（学修成果）や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか	自己点検・評価の結果に基づき各学科・専攻で適宜確認を行い、教職支援センターで見直しを行っている。2023年度に作成した教員養成の計画を示すための教職課程カリキュラムツリーを説明会や教職課程ガイドブックを通じて学生にも明示している。	A	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画
4	大学全体	複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況	複数の教職課程間における授業科目の共通開設は、開設に責任を負う学科等の強み・特色を生かしつつ適切に行われているか	同一学科の中高免許課程での「教科に関する専門的事項」や、複数学科での「教育の基礎的理解に関する科目等」について、適切に共通開設を行っている。	A	・教員養成課程の履修に関する規則別表3	
5	大学全体	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	ICT環境（オンライン授業含む）、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか	模擬授業を行う教室にはプロジェクターやWiFi等、ICT環境を備えている。また教職課程を履修する学生のための施設である教職サロンには関連図書や設備を適切に整備している。今年度実施した学生アンケートの集計結果を踏まえ、英語教育法関連の書籍を購入しサロンに配架するなど、学生の希望を踏まえた関連図書の充実を図っている。	A	・備品管理台帳（教職サロン） ・書籍管理簿（教職サロン）	
6	学科等	教育課程の体系的性	法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか、教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか	必要な授業科目が適切に開設されている。また、各学科で体系的に開講される語学関連科目の中から、外国語コアカリキュラムに照らしてより適切な科目を教科専門科目として厳選し教員養成カリキュラムを編成している。	A	・教員養成課程の履修に関する規則 別表3・4・5・7	

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
7	授業科目・ 教育課程の 編成実施	大学全体	ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系的性	教員として身につけることが必要なICT活用指導力の全体像に対応して各科目間の役割分担が適切に図られているか、到達目標や学修量が適切な水準となっているか	2025年8月に、文部科学省より令和7年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けたことを踏まえ、教職課程においても2026年度より第66条の6に定める科目について、「データサイエンス入門」を追加し、学生のICT活用指導力の向上を図っている。引き続きコアカリキュラム対応表の活用等により各科目間の調整を図り効果的な編成を進める。	A	
8		大学全体	いわゆるキャップ制の設定状況	1単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能しているか	大学で定めた指標に基づき、教職課程を履修する学生の履修登録単位数及びGPAの確認を教職部会にて行い、概ね適切な履修状況であることを確認している。結果については学生の学修指導等に活用できるよう、各学科へフィードバックを行っている。	B	・履修登録単位の上限に関する規則 ・教職資格登録学生の履修状況表
9		学科等	教育課程の充実・見直しの状況	学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	英米学科・第2部英米学科・第66条の6科目において科目の見直しを行った。今年度実施した教職課程アンケートや自己点検・評価の結果等を踏まえ、引き続き見直しを行っていく。	B	
10		授業科目	個々の授業科目の到達目標の設定状況	法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか	概ね適切である。担当者変更に伴うシラバスの変更や作成に併せて外国語コアカリキュラムや教職課程コアカリキュラムの対応状況について教職部会において確認作業を行っている。	A	・コアカリキュラム対応表
11		授業科目	シラバスの作成状況	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか	全学的なシラバス作成方針（シラバスガイドライン・入力マニュアル・セルフチェックシート）を定め、方針に従って各教員が作成している。2025年度より全学的なチェック体制が構築され、シラバスチェックが実施されている。	A	・シラバス ・シラバス作成方針
12		授業科目	アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況	授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか	授業科目の到達目標に応じ、演習やグループワーク、ディスカッション、発表、フィールドワークなどを積極的に取り入れている。またオンラインやハイブリッド授業の提供をはじめ、ICTを活用した多様な授業方法を設けており、アクティブラーニングやICT活用など新たな手法を取り入れた授業を行っている。	A	

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
13		授業科目	個々の授業科目の見直しの状況	学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	授業評価アンケートや教職課程アンケートの結果を踏まえ、随時授業の改善を行っている。	A	・シラバス
14		授業科目	教職実践演習及び教育実習等の実施状況	教職課程において特に重要な役割を果たす教職実践演習、教育実習は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか	内規に基づき、阪神間の実習校で教育実習を行う場合に専任教員であるゼミ担当教員が巡回指導を行っている（2025年度は8名）。加えて教育実習の評価については大学の評価規準に基づき教職部会として成績を承認しており、大学の関与の下で適切に行っている。「教職実践演習」の授業担当者に英語を専門とする専任教員が加わり、教職課程の総まとめの科目である授業内容の一層の充実を図っている。	B	・2025年度教育実習巡回指導対象者一覧 ・2025年度巡回指導のお願い ・教育実習の成績評価（評価の規準及び方法）
15	学修成果の把握・可視化	大学全体	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか	適切に定め、大学ウェブページで公表するとともに、学生に対して「履修の手引き」等で周知している。	A	学修の評価、卒業認定基準等（【1】成績評価基準の基本方針） ・履修の手引き
16		学科等	成績評価に関する共通理解の構築	同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の標準化を図ることができているか	シラバスの定型化や評価基準の統一により、成績評価の標準化を図っている。加えて、専攻語学については言語ごとの到達目標を定め、客観的な成績評価に努めている。	A	
17		学科等	教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか	教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか	「教員採用試験の合格率」（本学学生の合格率が神戸市の教員採用試験における中学校・高校（英語）の一般合格率を上回ること）を指標として設定している。今年度は神戸市の一般合格率30.9%に対して本学の合格率は90.9%であった。教職課程履修生数の経年推移や当年度の実習・介護等体験・採用試験受験者数・合格者数等の情報について確認を行っている。	A	・第4期調書（2025年度シート）「語学教員の養成」
18			教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか	教職実践演習の授業の中で、各回のテーマ・趣旨に即して、各自の該当箇所の記述を振り返り共有し合うなどの形で活用している。今後も教職課程科目の変更や内容に合わせて、必要に応じて項目の検討や変更等の修正に取り組む必要がある。	B	・履修カルテ	

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
19		授業科目	成績評価の状況	各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・評語に反映することができているか、公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか	レポートや発言等の授業貢献度、試験結果など、あらかじめシラバスに明示した評価基準により定量的・定性的に達成水準を明らかにしている。また「教育実習」については別途評価規準と評価方法を定め、評価を行っている。	A	学修の評価、卒業認定基準等（【1】成績評価基準の基本方針） ・教育実習の成績評価（評価の規準及び方法）
20	教職員組織	大学全体	教員の配置の状況	教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足しているか	教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等とともに必要専任教員数を充足している。	A	・2025年度 教員養成に係る教員の数
21		大学全体	教員の業績等	担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況	十分な研究実績及び実務経験を有すると考えられる。	A	教員紹介 2025年度実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（PDF）
22		大学全体	職員の配置状況	教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか	教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置している。	A	・事務分担表
23		大学全体	F D ・ S D の実施状況	いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるための F D ・ S D が確実に実施されているか、適切な内容が実施できているか、実際に参加が確保できているか	大学として行うFD活動のほか、教職課程担当教員は専門領域のFD活動に積極的に取り組んでおり、事務職員も学内外のSD研修や教職課程に特化した研修に参加することで知識の拡充を図っている。他大学における実地視察の指摘事項や教員養成に係る文科省の答申等を教職支援センターで確認したほか、FDの一環として、教職課程を履修し終えた学生を対象としたアンケートを実施している。	A	FD・SD活動 ・2025教職課程アンケート結果報告
24		授業科目	授業評価アンケートの実施状況	個々の授業科目の見直しに繋がる F D の機会を活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか	全学的に授業評価アンケートを実施し、個々の授業科目の見直しに繋げている。加えて、昨年度より教職課程のFDの一環として、教職課程を履修し終えた学生を対象としたアンケートを新たに実施している。	A	FD・SD活動 ・2025教職課程アンケート結果報告
25	情報公表	大学全体	学校教育法施行規則第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況	法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行えているか	教職課程情報の公表をHPにより適切に公表している。	A	教職課程情報の公表
26		大学全体	学修成果に関する情報公表の状況	大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか	実習校からの教育実習の成績評価は総じて高く、また教員採用試験合格率は90.9%を示していることから、高いレベルでの教員養成が行えていると考えられる。またそれらの情報をHPや大学データ集の中で公表している。	A	卒業生の教員免許状取得状況 卒業生の教員就職状況 大学データ集（2-6 資格等取得状況）

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
27		大学全体	教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況	根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表できているか	根拠資料として大学ウェブページ等のリンクを掲載する等、明確で分かりやすい評価報告書の作成・公表に努めている。	A	教職課程の情報公表 (6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組)
28		大学全体	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができているか、教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか	学内ポータルサイトの活用等により、各種説明会やイベント等様々な情報提供に努めている。昨年度より学生の有志グループが教職課程のInstagramを開設し、学内のフォロワー（217人）に対して積極的な情報提供（投稿数40）を行っている。教職課程履修のスタートとなる履修説明会（1年生対象）の周知には、学内広報ツールの一つであるデジタルサイネージを活用している。	A	・ 教職Instagram ・ GAIDAI PASS
29	教職指導 (学生の受け入れ・学生支援)	大学全体	学生に対する履修指導の実施状況	必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか	免許取得や教員採用までの流れを示した教職課程ガイドブックを配布するとともに、事務局の教職専用窓口において日常的に履修相談にあっている。また模擬授業セミナーや教員採用試験対策セミナーを数多く開催することにより教育実習や教員採用試験のためのきめ細かな支援を行っている。	A	本学の教職課程 神戸市外国語大学の教職サポート
30				「履修カルテ」を適切に活用できているか	毎年度末及び教育実習終了時等に履修カルテを回収し、教職支援センターの教員が目を通しコメントを記入した上で返却している。一人一人の学生へ教員からのアドバイスやコメントをフィードバックしており、学生の学修意欲に応えている。	A	・ 履修カルテ
31		大学全体	学生に対する進路指導の実施状況	学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	教員採用試験を受験した学生による採用試験報告書を受験報告集としてとりまとめ教職サロンに配置するとともに、各自治体等から届いた教員採用情報を事務局窓口配置するなど、学生への情報提供に努めている。またキャリアサポートセンター主催の神戸市や兵庫県教育委員会の採用説明会、私学教員採用対策セミナーを開催している。教員として活躍している卒業生の情報を「お仕事図鑑」としてHPに掲載し学内外に公表している。	A	・ 令和8年度採用試験の受験報告集 ・ 神戸市・兵庫県教委による採用説明会 ・ 私学教員採用対策セミナー 卒業生お仕事図鑑（高校教師）

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
32	関係機関等との連携	大学全体	教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況	教員の採用を担う教育委員会や各学校法人と適切に連携・交流を図り、地域の教育課題や教員育成指標を踏まえた教育課程の充実や、学生への指導の充実につなげることができているか	近隣の教育委員会や学校と連携し、現職教員と教職課程履修学生が共同的・対話的に学び、意見交換する機会を年に数回設けている。 教職支援センターの委員が神戸市教育委員会との連絡協議会等に積極的に出席し、養成・採用等に関する情報や方針を共有することにより、教育委員会との連携を強化し、大学全体として教育課程の充実を図っている。	A	・第4回教職部会資料（スクールサポーター連絡協議会報告）
33		大学全体	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか	教育実習の巡回指導（2025年度8名）において、学生の実習状況等に関して実習校の教員と本学の教員が意見交換等を行うことにより連携・協力を図り、適切な実施につなげている。	A	・2025年度教育実習生巡回指導対象者一覧 ・2025巡回指導のお願い
34		大学全体	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか	神戸市教育委員会の制度であるスクールサポーターや学校インターンシップの活動を授業科目として単位化し、学校体験活動への参加を奨励している。定期的に学生の報告会を開催し、教職員による活動の改善や充実に向けた指導助言を行っている。2025年度はスクールサポーター12名、学校インターンシップ1名が活動を行った。	A	・募集説明会 ・2025スクールサポーター・学校インターンシップ参加状況 ・学内報告会開催案内
35		大学全体	学外の多様な人材の活用状況	学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用することができているか	現職教員や教育委員会の方を特別講師として招聘し、教職概論及び教職実践演習等の科目において、講義内容の臨床化を図っている。 また、実践演習では、高校現場と連携し、履修学生が、生徒の実態に即した学習プログラム（アクティビティ）の企画・実施にも取り組んでいる。	A	・2025教職概論講師・日程一覧 ・招聘講師 履歴書一覧 ・教職実践演習シラバス